



# 弘前アップル RC 週報

会長：山本周平 幹事：菊池 勲

2013/02/26

第 36 回例会

## 弘前アップル RC 事務所

〒036-8086 青森県弘前市田園 1-21-1 アイエーネットワーク内

## 「感謝って、いいね」

内部卓話：菊池 勲 会員



卓話に先立ち、菊池会員の松下政経塾の先輩からいただいたミカンの大トロ「せとか」をごちそうになりました。

18歳の頃、私は坊主頭で金髪だったんです。体型は今のだいたい3分の2くらい、今の推定体重は95キロなので（笑）60キロ後半から70キロ位が当時の体重でしたからかなりスリムだったんですよ。金髪にしていたのは大学入試に落ちた腹いせだったかもしれないし、野球部でずっと坊主頭で髪型を好きに出来なかった反動があった

のか、そういうわけで金髪だったんです。私はずっと大阪にいたんですけど、当時大学に入れなくて、それまではずっと宇宙飛行士と野球少年を目標にしている好青年のイメージがあったんですけど、だんだんそれがスレてきました。こういうところから話がスタートするんです。

当時は大学に落ちて浪人生の夏になったとき、勉強しまくって当時の睡眠時間は2時間、ひたすら勉強しまくって京都大学がB判定でるとか普通に



「あ、これもう入試は大丈夫だな」と思っていました。そうしたら「大丈夫だな」という言葉で安心したのか、人というのは面白いもので、目標に近づくとき心が揺れ動いて、なんで勉強しなきゃいけないのかって考え始めました。なんのために自分がその大学に入るんだとか、なんのために勉強するんだとかを考え始めて、それ以来勉強ができなくなって、自分の将来ってなんなのかなあって、思い悩みながらどんどん道はずれていきました。

その答えがでるのにはずーっと時間がかかって、それは大学に入る直前くらいまでかかりました。浪人期間中に、私は ena という東京中心に出している塾があるんですが、そこで先生の奥田猛という人に出会いました。彼はものすごく数学が得意で、数学の授業を習ったときに本当に難しい問題を自分で作ってきて、東大受験生、京大受験生、医学部はじめ色々な人達を教えていました。その奥田先生の授業を受けていた時にすごく自分が気づかされたことがあって、それが今の基礎になりました。今から思えばそれがわかるんですけど、なんのために生きてるんだろうとか、なんのために生きなきゃだめなんだという答えがわからなくて自分自身がすごく揺れていたときに、奥田先生というのは「別に答えを求めなくてもいい、自分の生き方をちゃんと求めていきなさい」というかたちの指導。数学って、当時自分も数学とか物理が大好きでやっていたんですけど、本来いろんな解き方があります。でも大体先生がこの解き方をしなさいって、答えを一通りしか教えてくれないんですよ。で、自分が行き詰まったときに

なんで行き詰ったのかという答えをださせてくれなくて、また強制されてスタート地点も戻されて、その先生の解き方だけを教えてもらうというくり返しだったんですよ。もちろん、コピーされた人間だったらそれはすごくいいんですけど。人って、なんでもそうかもしれないけど、こういう生き方をしなさい、ああいう生き方をしなさいって全部が年上の人からの目線で教えられたときに途中まではだぶんいけるんですよ。ある程度までいけてもなんかの壁にぶつかった時、そこで答えを出せないと行き詰ってですね、またスタート地点に戻る。で、自分が高校を終わって当時大学を落ちたときに一番大事だった目標ってなんなのか、自分の考えがどうも答えがでてこない。この時、今までは模範解答みたいなものが用意されていたところだけをひたすら求めていた自分があるって、そこで悩みました。奥田猛という先生と出会って、「君はこういう答えをだそうとしている。じゃあ、これはどうしたら解けるのか？」そこを教えてくれるんです。だから 100 万通りの解き方があったらその 100 万通りの解き方を教えてくれるのが奥田猛という人でした。だから私はそのとき、なんで自分が悩んでいたのか、なんで勉強しなきゃならないのか、なんで目標をもたなきゃならないのか、わからなかったんですけど、やっとそのとき前に進もうという気持ちが出てきました。で、長くかかって東北大学に入った時に、東北大学にはいることが当時私の目標になっていました。だから東北大学に入ったとき、物理を勉強しなければいけないけど、そのあとまた自分は何を目指したらいいのかがらついてきました。大学に入



ったときに宇宙飛行士になりたいという夢があったんですけど、実際入ってから勉強が簡単だったんですよ。受験の方がむずかしい。奥田猛という先生が作った問題のほうが難しい。そのほうがすごく自分の身になっていて、大学に入ったとき、なんで自分が大学に行かなきゃならないのかと思っていました。

その頃、はじめて塾の先生のアルバイトも同時に始めました。当時塾の先生の時給が2500円だったんですけどいろいろ紆余曲折があって、塾の先生として時給3500円くらいまであがっていたんですよ。人気講師になってあれよあれよと貯金も一気に100万円を超えて稼ぎに稼ぎまくっていました。「俺、塾の先生で行けばいいや」と思って、学校をやめるかやめないかというのを大学2年生のときに悩みました。で、もう、大学で物理のことを勉強しないでいいや、大学より、いまの困っている子ども達を教えなきゃということがありました。悩んだときに一番最初に忘れていたのが、自分の両親に対する感謝です。いままでは当たり前だったけど、なんでかわからないけど当時親に「大学をやめようか」と相談しました。そしたら親はなんにもいわないで「別に、自分の好きなようにしなさい」という話で終わって、そのとき辞めようかなというのが頭に浮かびました。でも、大阪にいる時のある友人に相談したとき「いや、おまえ間違っているよ」と言われたんです。「自分が高校、浪人と育ててくれて、親が自分を育てるためにいくらお金をつかって、いくら親が心配していたと思うんだ！それに対して、もし感謝という気持ちをも

っていたらまずは大学を卒業してから塾の先生になればいいじゃないか、君の気持ちはよくわかる、でも大学というところに入って欲しいと思ったのはたぶん親もそう思ったはずだ。その親の気持ちに応えるのも君のひとつの役目じゃないか」と言われて当時そのとき踏みとどまって、「そうだな、ほんとに親にお世話になったなという気持ちもあったけど、大学を卒業することがひとつの親への感謝なんだ」ということで、大学を卒業するまではがんばろうというと思いました。当時、大学1年生の1学期以降、私は3年前半くらいまでほとんど大学にいてなくて塾の先生をやってお金ばかり稼いでいました。でも、そのあと、3年生後半から4年生いっぱいにかけて残りの単位を全部とったんですよ。そのときは受験期と同じで寝るヒマもなく勉強しました。

それと、なんで今の政治の道につながっていくのかというと、これがまたもうひとつの「感謝」という言葉がキーワードになっています。私は大学1年生のとき、塾の先生を始めました。当時宇宙飛行士になるか、いろんなことを思って大学で勉強するなかで子ども達の教育を考えるようになって。私、塾の先生をやって一番最初思っていたのは、自分の解き方さえ教えればきつとこの子ども達はエリートに育っていくんだというという感覚だったんです。でも途中でこれがマズいということに気がついたんです。正確には、子ども達に気づかされたんですけど。

子どもって、それぞれに生き方があって、それぞれに考え方があって、



自分の考え方をいくら教えたってそれは私の浪人生の時と同じなんですよ。それぞれの考え方があるので、それぞれの子どものつまずいているところがどこなんだと見極めていかないと教育って解決していかないんだ。そういうところを実際教えていく中ですごく気づかされて。で、とあるときに私が、さりげない問題でわかんないといわれて教えたときに「ありがとう」といわれました。私は教えてありがとうといわれたのはそれが初めてです。ある子どもが中学校を卒業して高校に受かったときに「先生があの問題を教えてくれたから私の今がある」といわれたんです。「だからすごく感謝しています」と言われて。最初なんのことかよくわからなかったんですけど、でもやっていく中で、子ども達っていろんな所でつまずいて、紆余曲折して、そのときにさりげない言葉とか、さりげないキーワードとかが意外に子ども達の進路にすごい影響を与えているってわかって、教育ってものすごく大事なんだと当時の私は大学1年生を終わったとき、受験というひとつの山を越えたときに感じさせられて、教育の大切さに没頭していきました。菊池さんみたいな先生が学校の先生だったらと言われる中で、私の問題意識に一番あるのは学校の先生とか、または他の大人の人、なんで子どもがつまずいている場所をわかってあげられないのか、疑問に答えられないのかというのが私の中でそのときにひっかかった部分です。どうしたらいいのかなと考えたときに、人を育てることをやっていかなきゃならないんだ、と。それは私も含めて大人たちが子ども達のわからないところを気づける存在にならないと、たぶん子

どもたちって全国いろんな所で、いろんなことで悩んでる子どもがいて、そこにヒントを出したり、または答えを出すことができない子供たちがたぶんごまんといえるんだらうなというところに気づきました。もしかしてこれって教育もそうだけど、それ以外の選択もあって、政治というフレーズと人材育成というフレーズが重なって、それが私が松下政経塾に入ろうとした大きな問題意識の原点になりました。当時、子どもに「ありがとう」と言われて、そして感謝されたときに私が受けた言葉、思いに対して自分がこれから答えていかなければならない、それがきつと子供たちが生きやすいとか、私がいままでかかわって来た子ども達と今でも連絡を取りあっているけれど、子ども達の可能性をどこかで気づいてあげて、子供たちが成長していけば、こんなにこの子ども達って人生のなかで選択肢が増えていくんだという実感があり、そのあと、子供の悩みに気づける大人を育てたいというのがひとつの夢で政治家を目指していこうと決めた背景があります。

政経塾にはいったあとの話をすると長くなってしまうのではしよりますけど、最後に、やっぱり政治でやらなければいけないと思った一番のポイントは政経塾の時に、北海道家庭学校というところで研修をさせてもらいました。1年間北海道の流氷が見える地域の、名前をど忘れしましたが（注：遠軽町）、そこに木造の、非行少年が更生のために入っていく学校があります。そこは全寮制なんですけど、全寮生といっても、寮長、寮母がいて家族みたいに寝食をともに生活をして生活習慣



を整えていくところから子ども達の更生をしようということをやります。お父さん、お母さんからの愛情が少ないっていうのが背景にあるんですけど、それに似た空間をつくりながら子ども達の更生を整えていく、そして、併設されている学校で単位をとり、卒業資格をとりましょうというのがその学校のプログラムとしてあります。私も1年間ぶっ通しで行かせていただきました。そのとき感じたのは、子ども達は大人のことをすごく見てるんです。特に非行少年とか、ちょっと落ち着きのないうちの子供ってすごく私達のことを見て、「菊池さんって資格取るためにここに来たんですか」と一番最初に言われました。でも資格じゃなくて自分はこういう子ども達をなんとかしたいと思うから来てて、でも、それを子供はすぐ見破ります。私のほかに何人か、司法書士とか社会福祉士とか色々な資格を取りたいと研修にきていた人たちがいて、「あの人は資格を取りたいからきているだけだよ。顔をみればわかるもん。行動をみればわかるもん」といわれて、私はその中で子供ってやっぱりそういう感覚がすごく優れていて、自分は確かに真正面から子ども達の行動や発言を受け止めていく中で、彼らの過去にあったこととか普通話してくれないけど、いろいろ話を聞かせてもらいました。やっぱりそういう子供たちが気持ちを発する場とか思いを語る場というのが彼らにはないんだなというのがものすごい背景にあってですね、ある授業の時、それは書道の授業でしたが、私も書道を小学校の時に少しやっていて、ちょっと書いたんです。で、子供たちがみんな集まってきて「こんな字みたことない」って言うんですよ。

汚すぎて見たことないんじゃないかと、自分で言うのもなんですが、すごい躍動感があってこんな素晴らしい字を見たことがないって自分に言ってくれたんです。だから自分は何をしたかという、子供たちがみんな名前を書いてっていうんです。自分の名前を書いてほしい、菊池さんの字で名前をかいてほしいんだって。なので全部に名前をかいてやったんです。そしたらある日、私が帰って彼らのベッドをみたらその紙を貼ってあるんです。その1年後、帰って政経塾の寮に戻ると、あるとき子ども達から手紙が届きました。それはみんな見よう見まねで書いてるんですけど、読めるような漢字がひとつもないんです。そういう子供が感謝の気持ちを書きという形で返してくれる、そういう子ども達の気持ちにこたえていく仕草が、いま思いの矛先がわからず非行に走っていく子ども達には必要なんだと改めて実感しました。卒業後は教育に目線をおきながらも、まずは制度かもしれないし、あるいは人材育成の教育の面かもしれないし、まだ私は答えを出せてないと思いながらいろんな分野に取り組んでいこうと決め、ひとつのきっかけとしてまずは地元の子ども達をなんとか、いま不登校でも100人くらいいますが、まずその子ども達を将来ある社会で自立させたり、学校に行かせたりすることをなんとかやれないかなと思いながら、教員は教職免許がないから行けないし、行政とか一民間人としてそういうものに携わっていかうというのが本当の原点にあります。

そのあと、私の仕事の話をするとう長くなりますが、社会の中でどんどんお



ちこぼれていく若い人、または片道切符で東京に行く自立ができない若い人たちを見ていく中で、地元弘前と重なる部分がすごいあって、やっぱり若い人たちだって働きたいし、夢がある人が多くて、やはり子供の社会への自立の基本的な部分、若い人たちは夢を追ってダメになったときになんとかもう一回社会の中に這い上げられるシステムをつくるのが基本的な部分にあって、それは、いままであった子ども達の感謝が基盤にあって今の自分にあっているなど最近になってよくわかりました。

とある本をずっと見てて、この間聖愛高校でも講演をさせてもらったんです。そのとき言ったんですけど、実は「心」をいう漢字があるんですけど、なんでこれを「心」というかわかりますか？と言ったら、まあ、高校生はなかなかかわからないです。私も実はこれをなかなかわからなくて。心臓のしん、だったら中国からきているから読めるんだけど、心ってなんで「こころ」っていうんだろうと思って、いろいろ本を読んだんです。漢和辞典を見ればいろいろ書いてあるからわかるんですけど。日本人って面白いと思うのは心という字を見てピーンときたのは、この心というのは「コロコロ変わる」ということからこころが成り立っているんです。私自身目標に向かっていくときは心が一直線なんです。ひたすらまっすぐ向かうんですけど、でもいざ目標手前になると人は心が揺れ動くんです。怠けたい、サボりたい、またはちょっと遊びたい、勉強したいとかいろんな心が揺れやすくて、その心を落ち着かせるのがひとつの人としての大事な道なんだ。目標を立てたりまたは勉強し

たり。ただ単に勉強しなさいではなく、あなたは目標を持ちなさいということに対して、私は答えを出せるとすれば心をひとつの方向に向ける、そして、それに向かっていくことが人として、人が進んでいくには必要なんだという風な形で、コロコロ変わる心を落ち着かせるところから来ているという話を高校生にしました。

もっと面白かったのが、志を立てなさいといわれて「志」の意味がわからなかったんですけど、これは上がもともと足という字と心の字がくっついて志になる。心が足を持って歩いていく方向、それが「志」なんです。つまり何かって言うと移り気な心がひとつの方向に向かって突き進んでいる状況が志がある、または志を立てている人なんだという話を、そのとき私もこれをちょっと勉強していました。それで、「志」という言葉を、自分自身の人生に当てはめると、子ども達や親からももらった感謝という言葉がこの心を定めてくれました。この心が定まった方向がいま自分は政治とか、その立場でやっていくわけですけど。これ、最後なにに行き着くのかなって、これも辞典で調べて一つの漢字に行き当たったのが「徳」という漢字だったんです。

「徳」って少し崩してみると志という言葉の間に目と言う字が入って人っていう字が付くと「徳」になります、これは何のことかという、この心と目と十というのがまっすぐ素直にという意味なんですけど、まっすぐ素直に目で見て肌で感じて人間の五感で感じながら心が向かう方向が「徳」なんだという話をあとで聞いたとき、自分にとって感謝という言葉と向かっていく方



向、これが人を作る「徳」っていう言葉なのかなあと、本を読みながらすごい感じるどころがありました。やはり、移り気な心をひとつの方向にむけてくれるのは何につけても人からの言葉。また、感謝の重みというのを私も行く先々でいろんな移り気な心がある中で、それをひとつの方向にいつもやってくれているのは、自分の背中を押してくれている近所のおじちゃんやおばちゃん「いつもありがとな」という言葉なんです。なので案外こういう言葉の大切さというのは最近忘れられていて、そういう「感謝」って人の心を整えてくれる役目があるんだってことを、これは聖愛高校でも言ったんですけど、この言葉の重みがすごい大事だなと思います。幸か不幸か、「ありがとう」という言葉を漢字で書くと「有ることは有り難し」。ということは、ほとんどない、めったにない貴重なことを昔の人はありがとうという感謝の言葉に代えたといっていました。きっと、それだけ大事な「感謝」という言葉が忘れ去られたり、またはそれで自分が支えられることに気づいていないということが、今すごい不幸なのかなあとこういうところがあって、こういう言葉を子ども達に伝えていかなければならないし、自分自身がそれを実践していかなければならないと思います。最近はそのように感じる事が多くなりました。ぜひ皆さんも思い当たる方、帰ったら「ありがとう」の言葉をかけると、意外とその相手の人が心が定まって向かっていくのかなあとということをですね、私の経験で感じていましたので実践していただけたらと思っています。

我が家の夫婦関係はですね、この言葉のおかげで大変最近生き生きしておりますので、それ以上の突っ込みはナシにしまして、「感謝っていいな」ということで私の内部卓話とさせていただきます。（大拍手）



### 会長挨拶 山本周平会長

普段何気なくしゃべっている菊池さんのことを深く知れてよかったと思います。以前、奥様と3人で食事したことがあるのですが、そのときはちょっと心配していた自分がいました。ちょっと甘えた菊池さんがいまして、奥さんをからかうような、こっちはまとも訊いているのに、「そんなのこうでいいよ」みたいな。いい夫婦の感じがみえたのですが（笑）、あそこからさらにちょっと仲良くなったんだなと安心しております。

菊池さんは私の得意な動物占いではゾウさん。政治の世界では橋本市長、石原慎太郎。いかどうかはそれぞれの価値観がありますが（笑）。原監督など名将や改革派の方、すばらしい方がたくさんいらっしゃいます。私も、話していると通ずるものを感じるなどいつも思います。本当に期待しています。みんなで応援していきたいと思っています。

本日は大変な雪の中ですが、遠いところからいらしていただいてお疲れ様でした。どうなることかと思いましたが、こういう人数もまた思い出のひとつかなと思います。本当にありがとうございました。

**ニコニコ報告**

山本周平会長：久しぶりに皆さんの顔が見れてうれしいです。大雪災害対策本部が設けられておりますが、こんな時こそ元気にいきましょう！

木村由美会員：雪すごい～(>o<)皆様気をつけて運転しましょうね。事故多し！！

山田順子会員：なんとかたどり着きましたあ～。雪のことしか話題に上がらない今日この頃ですが、早く春が来るといいですねー。車がまだ修理から戻りません。帰ってこいよ～。

田中裕介会員：雪サイコ～♪

三浦順子会員：春よ、来い♪♪もう雪やだ～。

渡邊潔会員：橋梁模型の大会で本校が最優秀賞になりました。昨年度に続き2連覇です。

宇野純子会員：今年は雪が多くて大変。除雪作業大変ですが、頑張ります！

**出席報告****第36回例会**

出席者数 10名

出席率 36%

修正出席率 46%

**【メイクアップ】**

2月7日 地区研修セミナー打ち合わせ 三浦会員

同日 地区研修セミナー 三浦会員

2月20日 八戸南RC 三浦会員

**■例会予定**

3月4日(月) 外部卓話(工藤真人 地区米山委員長と奨学生)

3月11日(月) 内部卓話「私の履歴書」(渡邊潔会員)

3月18日(月) E例会

3月25日(月) D例会(担当:ロータリー財団委員会)

★4月22日(月)の外部卓話は垣見裕司様(東京紀尾井町RC)です。垣見様のプロフィールは下記ウェブサイトをご覧ください。

<http://www.sbrain.co.jp/keyperson/K-6694.htm>

**■地区内外行事**

3月17日 地区チーム研修セミナー(八戸)

5月12日 地区協議会(八戸)

5月17-19日 ロータリー世界平和フォーラム(広島)

10月5-6日 地区大会(八戸市)